
かすかに残った希望

高杉裕也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

かすかに残った希望

【Nコード】

N2262Z

【作者名】

高杉裕也

【あらすじ】

世の中に絶望した僕の同志に贈ります。

このひどい世の中で、何か一つでもいいことを探すのは難しいけど、それでも世の中は（曲がりなりにも）いいことを探すみんなの努力で成り立ってるわけで、よく考えるととても不思議だ。

そんな疑問の湧いた僕は世の中に絶望して、その上世の中に迷惑をかけている人間の一人なわけだが、自殺者三万人のうちの一人になりたいわけじゃないし、かといって動態的な経済の中に埋め込まれる歯車になりたいわけでもない。宗教者にもなりたくない。たいてい人間はこんな僕に何かしらのひどい烙印を押して立ち去っていく。当然だ。僕みたいな人間は救う価値はまったくない。前へ進むつもりのない人間は。経済は立ち止まったり、振り返ったりすることはない。ひたすら前へ、矛盾を抱えたまま邁進するのだ。二十四時間営業のコンビニが一時間でも営業時間を減らすだろうか？むしろたいていの店は何とかして営業時間を延ばそうとしている。何のために？ 前へ進むために。国の繁栄度を表すのはGDP成長率だ。これはおかしいとは思わないか？ なぜ「生産量が増えれば国の繁栄につながる」ことが前提になっっているのか。僕は今の生活を維持したいのだ。確かに人は言うだろう。それであればもっと懸命であれ、と。そうだ。僕は努力が足りないのかもしれない。しかし、努力したからといってそれが報われる保証がどこにあるのだろうか？ 僕がこれを書いたからといっていったいどれほどの人が読むのだろうか？ 大した人数は読まないはずだ。なぜなら僕には才能がないから。

そんな絶望の中でも、やっぱりかすかに残った希望というのはある。未来に何が起こるか分からない、という絶望の裏にぴったりと張り付いた希望が。震災。地震。原発事故。その悲しみと絶望の裏には、まだ薄皮一枚残った希望があるのだ。もはや後戻りはできない。だからと言って前へ進む気にもなれない。そんな僕は今日川へ

飛び込んで、ひたすら自然の流れを感じ、受け止め、吸収した。すごい、すごい、すごい！ 自然の脈動、川海空雲雨嵐マグマプロミネンス……もはや僕は経済の動態からは遠く離れ、より大きな流れに帰依していった。また明日も何とか生きていけそうだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2262z/>

かすかに残った希望

2011年12月8日02時00分発行